

第74回・歴史教育者協議会全国大会（兵庫大会）レポート

第19分科会 障がい児教育

レポート名：「放課後等デイサービス」で過ごす子どもたち

竹下 忠彦（東京都歴史教育者協議会・町田支部）
元放課後等デイサービス臨時職員



日時：2023年8月10日（木）～8月11日（金）
場所：関西学院大学西宮聖和キャンパス（西宮市）

第74回・歴史教育者協議会全国大会（兵庫大会）レポート

1. はじめに

筆者は2021年4月から2022年5月まで、相模原市のT事業所（「放課後等デイサービス」事業所）に臨時職員として、おおよそ週1回、平日一日4時間、土曜日・祝日は6時間勤務のペースで勤務した。

学校教員だった私が、T事業所の臨時職員になったのは以下の理由による。

2021年4月に開所のこの事業所は、障がい児支援（教育）の経験がほとんどないスタッフが開設スタッフになったため、障がい児支援（教育）の経験のある人材を臨時スタッフに迎えたいという意向があった。

T事業所の利用対象者は、相模原市と町田市在住の知的障害の手帳をもつ中学生・高校生である。対象者のほとんどは、中学校特別支援学級、特別支援学校中学部、高等部に通う生徒たちで、平日の放課後と土曜、祝日の日中にT事業所で過ごす。

本報告では、障がい児の放課後学童クラブの様子を紹介し、元臨時職員の立場から学童クラブの抱える課題を考えてみる。

2. T事業所の概要

放課後等デイサービス 名称省略

代表 省略

住所 省略

利用対象者 中学1年生～高校3年生

〈中学生＝特別支援学校、特別支援学級、通級指導学級〉

〈高校生＝特別支援学校など〉

ご利用時間 月曜日～金曜日 下校時間～19:00

土曜日・祝日 9:00～17:00

学校・ご自宅への送迎可

職員構成 管理者 1名

児童発達支援管理責任者 1名

児童指導員（教員・介護士等） 3名

指導員 4名

【平日の流れ】

目的とする就労先により「曜日」や「活動場所」を分けて集団・個別を組み合わせで活動を行います。

15:00 学校お迎え・自主通所

16:00 1時間目 グループワーク・個別活動

16:30 2時間目 グループワーク・個別活動

17:30 3時間目 グループワーク・個別活動

第74回・歴史教育者協議会全国大会（兵庫大会）レポート

18:00 清掃
18:30 帰りの準備

【土曜・祝日】

長い活動時間を有意義に過ごせるように午前の活動と午後の活動に変化を持たせた楽しい時間を計画します。

09:00 お迎え
10:30 グループワーク・個別活動
12:00 昼食
13:00 グループワーク・個別活動
14:30 就労事業所見学・公共機関利用訓練
16:40 帰りの準備

【支援の内容】①就労という「ゴール」までとことん支援

②就労を楽しく準備

③一人ひとりの特性に応じてグループワークと個別活動を組立

【送迎】ご要望に応じて、学校・ご自宅への送り迎えを承ります。

(以上 T事業所HPより)

3. 保護者の経済的負担

【ご利用料金】

ご利用料金は、児童福祉法により厚生労働省が定めた金額になります。

ご利用料金の9割が保険の給付対象となり、1割をご利用者様にご負担いただきます。

なお、ご利用者様における負担金額の上限金額は、月間0円・4,600円・37,200円（所得に応じて区分）と決められており、上限金額を超えた部分は、保険対象となります。

【概要費用（参考）】

平日 1日…9,500円

学校休業日 1日…11,000円

上記金額の1割負担になります。

なお、月額で上限金額を超えた部分は、保険対象となります。

【ご利用者様の上限負担金額】

世帯所得額により市町村が決定します。ご利用者様の上限負担金額は下記のように区分されます。

⇒上限負担額…0円 4,600円 37,200円

詳しくはお住いの市町村へお問い合わせください。

(以上 T事業所HPより)

第74回・歴史教育者協議会全国大会（兵庫大会）レポート

4. 1年間あまり勤務して —その現実—

スタッフ体制について

1学期（4月～7月）

当初スタッフは責任者のIさん（教員免許あり）、指導員のOさん、Kさん、以上正職員スタッフ3名、他に臨時職員（Xさん、Yさん、竹下）が3名だった。

この事業所の一日の通所定数は10名であるが、開設したばかりということもあり、1学期は平日5～6名利用の日が多かった。それに対しスタッフも4～5名で勤務態勢を組んでいた。そのため、実際の支援の場面では、マンツーマンでできることも多く、比較的支援しやすい環境にあった。

6月に教員免許をもつTさんが新規採用になり、配属になった。同じくNさん（教員免許あり）が新規採用。正職員が5人になり、また臨時職員としてFさんが配属になった。これでしばらくはスタッフ配置に心配はないと思われた。ところが7月になり、立ち上げメンバーのKさんが、7月初め同一グループ内の他の事業所に急に異動になり、大変驚いた。またNさん（教員免許あり）も1ヶ月で同一グループ内の他の事業所に異動になり、これにはさらに驚いた。なお、Fさんは臨時職員だが、正職員と同じ勤務時間働く条件で配属されている。

2学期（9月～12月）

8月、Iさん（責任者）がオーバーワークがたたり休職する事態に陥ってしまった。替わって責任者代行を6月に入ったばかりのTさんが9月から務めることになった。

責任者Tさん（教員免許あり）、Oさんの2名の正規職員とフルタイム勤務臨時職員のFさんが中心になり、Xさん、Yさん、竹下の3名の臨時職員が補強にまわる形で2学期はスタートした。

Fさんは、1学期途中の入社であったがフルタイム勤務の実績が認められ、10月から臨時職員から正規職員に昇格した。

10月末 臨時職員Xさんが退職した。

11月、臨時職員NGさん、Wさん、Zさんが配属された。

12月末 初代責任者Iさんが退職した。

平日の1日の通所者数は、1学期より増え7～8名が多かった。それに対しスタッフは5～6名で対応した。新しいスタッフは現場になれるのに時間がかかり、それまでと同じようには集団指導ができないような日がでてきた。

3学期（1月～3月）

1月、正規職員は責任者Tさん、Oさん、Fさんの3名。臨時職員NGさん、Wさん、Zさん、Yさん、竹下（5名）でスタート。NGさんは臨時職員で短時間勤務であるが、動きのよいスタッフである。

1月末でYさんが退職した。

1日の通所者数は、2学期と同じかやや多めだった。最高9名の日もあった。それに対し、スタッフは5～6名で対応したが、個別対応必要な利用者に対し、支援が十分にできないような日も出てくるようになった。

第74回・歴史教育者協議会全国大会（兵庫大会）レポート

全体に2学期の後半よりもスタッフ体制が弱体化してきており、他事業所から応援をもらうことも多かった。臨時職員Zさんは3月末で退職した。

2022年5月

正規職員（責任者）のTさん（教員免許あり）退職。臨時職員の竹下退職。

2022年6月

他事業所へ異動したNさん（教員免許あり）退職。

放課後デイでの子どもたちの様子

平日、中学生はだいたい15:30～16:00に到着。高校生はだいたい16:30までには事業所に到着する。子どもたちは15:30～17:00まで基本的に自由に過ごす。ゲームをする、ノートに絵を描く、スタッフと会話する、学校帰りで疲れていたり、情緒的に不安定な場合は、仮眠をとったり、ゆったりスペースで静かに過ごす。1時間目、2時間目の作業の時間にやっていることをこの時間に個別に取り組む子どももいる。

全員がそろそろ、集団活動が始まる。

大体以下の様な流れで行っていた。

【始まりの会】（15分くらい）

1時間目 作業（30分）

2時間目 買い物学習、または作業（30分）

このあと部屋掃除をしてから、トイレ・身支度

【帰りの会】 18:15前後

⇒ 18:30 送迎車に乗車

作業の内容：シュレッダーがけ、古紙整理、家族へプレゼントづくり（母の日カード、クリスマスカード等）

ランタン製作、傘立て製作、カレンダー製作、踏み台製作、PC文字入力、PCで文書製作

買い物学習： 買い物シミュレーション 模擬店を設定し、実際に当日食べたいおやつ（お菓子）を選ぶ。模擬貨幣を利用して

個別学習（指導）： 公文のドリルの指導、日記書き（以上保護者の要望から）

ことわざドリル、常識問題ドリル、趣味の本、趣味の雑誌を読む、楽しむ

作業の時間の子どもたちの様子

→ 集団の中で作業をできる子どもと まったく出来ない子ども に分かれてしまう。

第74回・歴史教育者協議会全国大会（兵庫大会）レポート

まったく出来ない子どもは、その時にやろうとしていた作業に取り組むのではなく、場所を別の場に移し、個別にその子どものその時の様子に応じて過ごすような形になる。

また帰りだが、事業所の車を利用している利用者がほとんどである。出発は大体 18:30。大体 19:30 くらいまでには帰宅できるが、交通事情が悪いと 20 時近くなることもある。（私は送迎の仕事はしなかった）

個別のケース紹介

- ・ S・Sさん（中1・女） 最初の1ヶ月くらいは、デイに来ると床に寝転んだままなかなか起き上がらなかった。起き上がった後も椅子にすわらず、床にペタンと座り込む。ダンスが大好きで、踊っているか、部屋中を駆け回っていた。
→スタッフとカードゲームしたり、言葉でのやりとりが出来るようになってくると、だんだん変化していった。
- ・ OTくん（高1・男） 発作が頻回。体調が不安定。保護者からデイで日記指導してほしいと希望あり。1時間くらいかけて日記を書く。ステンシルなど美術的なことは好き。
- ・ Fくん（高2・男） 強い自閉傾向。Iさんの「一緒にこの事業所で頑張ってみよう」の誘いに応じて通所しはじめた。出欠をとることが大好き。鉄道、高速道路の話をつまでもしている。作業は短時間ならやる。Iさんの退職により見通しが混乱。別の事業所に移る。
- ・ OHさん（高2・女） 家庭で虐待あり。放課後デイに来た日は安定している。自分のノートをつくっていて、好きな芸能人の情報を書き写したり、芸能人への手紙を書いたりして過ごすのが好き。よく家庭での不満をスタッフに話している。
- ・ OMさん（高3・女） 毎回の送り迎え難航。しかし放課後デイしか居場所がない。来所すると特定のスタッフとはよく話す。個別作業は気が向くとやることもある。集団での作業はやらない。買い物学習は、率先して会計係をする。

5. まとめに代えて ー課題に思うことー

①障がい児の放課後の生活を充実したものにするため、障害児放課後デイサービスは、障がい児にとっても、保護者にとってもなくてはならぬ福祉サービスであると考えます。

②障害児放課後デイサービス事業は、現行のように保護者の経済負担が比較的軽い状態で存続していくことが望ましいと考える。上限 37,400 円は、妥当かどうか。検証が必要と思う。

③障害児放課後デイサービスは、まず「障がい児がほっと一息つける居場所」としての役割が大きいと考える。今回報告したT事業所のように、「就労支援に特化したデイサービス」と他の事業所との差異を強調し、それによって利用者を増やそうと考える姿勢には私は疑問をもつ。

第74回・歴史教育者協議会全国大会（兵庫大会）レポート

④③と関わって保護者も「就労支援」の指導を放課後等デイサービスに求めている面もあるが、本当のところ一番求めているのは、「19時まで（保護者が）安心できる場所でわが子を預かってほしい」という点であるように思う。

⑤学校との連携は重要。また個々のケースの学校との情報共有も重要である。

しかし、特に個々のケースの情報共有の意識は弱い。特に家庭の状況が厳しいケース、本人が学校生活順調でないケースなど、放課後デイサービス事業所側では、「デイ預かり」に責任をおい切れないように見えた。

⑤障害児放課後デイサービス事業にて働くスタッフは専門性が必要であり、また安定雇用が重要であると思つづく。しかし、この事業所では正職員（責任者）でも額面給料20数万円程度、臨時職員は時給1,000円程度の賃金で働いている。そのため、勤務が長続きしない＝スタッフの入れ替わりが激しい。またスタッフは児童福祉関係の資格、教員資格等を所持していない場合が多い。給料面での厚遇、取得資格面での基準づくりなどが政策的になされるべきと考える。

追加：保護者の評価 【項目別評価で厳しい評価が出てきたもの】

★お子様が学んだり、遊んだりリラックスが出来る場所と感じますか？ 満足度50%

★課外で活動できる機会があり、いろいろな体験が出来ると感じますか？ 満足度50%

一方で、

◎事業所で過ごす時間は安心できますか？ 満足度100%

◎ご意見・ご要望【自由記述】

- ・小学生がいないので落ち着いて活動ができる
- ・一般就労の練習でパソコンスキルや帳簿管理方法を教えてくれて有難い
- ・繰り返し自己紹介の練習が出来るので本人に自身がついたようだ
- ・同学年の子供ばかりなので安心できる
- ・学校での出来事を同年代の子供に話せるので楽しみにしている
- ・就労先に関して相談に乗ってくれるので頼りにしている
- ・夏休みに行った就労事業所の見学は大変参考になった
- ・本人が就労場所を見学した後に色々話してくれた
- ・就労準備の教材が揃っているので訓練がしやすい
- ・〇〇に行ってから集中力が長く続くようになった
- ・活動時間が長く充実している
- ・学校の活動ともしっかりと連動して欲しい
- ・活動時間と休憩時間が相互にあるので本人がリラックスして参加している
- ・中学生と高校生を曜日別に分けた方がよい
- ・活動内容をもう少し高度にして欲しい (T事業所HPより)